



「志々島レポート」

この秋ラジオカーの中継で詫間町の志々島を訪ねました。詫間港の北西5.5kmの海上にある周囲3.8kmという小さな島です。島へは詫間町の宮の下から船でわたります。私もその船にのりこみました。粟島汽船さんの船です。人だけでなくこの船は島の人へ届けるお米や郵便様々なものが運ばれていて、まさに島の生活の足です。



さて潮風を感じながらの約20分の船の旅でした。さあ志々島へ到着です。以前は1000人を超えていた島民も現在では30人ほどになってしまったという、過疎の島ではありますが、「花の島ロケの島」として密かに人気があります。さて私を迎えてくれたのが島に住む高島孝子さんでした。島で生まれ育ち今もご主人と花を育て、そして漁をしながら暮らしています。よく日焼けした高島さんがにっこり笑うと太陽のような暖かさを感じました。

島の移動は全て「足」が基本。道幅も一番広いところで2m足らず。ほとんどの道は細く一人通れるくらいの道ばかりです

から、島には自動車はもちろんバイクもありません。高島さんはそんな島の交通手段を「タクシー」てくてく歩く「タクシーよ」と言っておられました。そんな高島さんに志々島の本村地区を案内して頂きました。この本村地区の数ヶ所は昨年映画「機関車先生」ロケ地となっていたのですが、その中の一つ居酒屋「どら」のセットはそのまま観光施設にと残してあったそうです。しかし、残念なことに今年の台風で建物の中にまで波が入り中はめっちゃくちゃ、倒壊のおそれもあるため入ることもできません。ロケ地も趣きがあるのですが、私の目に飛び込んできたのは島のお墓でした。志々島のお墓は少し変わっています。高さ50~60cmほどの小さな家（祠）がずらりと並んでいました。そうドールハウスのような感じです。いろとりどりの屋根の色がなんとモユニーク、高島さん曰く自分の住んでいた家にあわせてそのお墓の家を作っているのだとか、とても鮮やかな小さな家が並んでいました。島の人は祖先を大切にそうので、その通りお墓の小さな家はたくさんの花達に囲まれていました。さてさてその後高島さん宅を訪ねました。

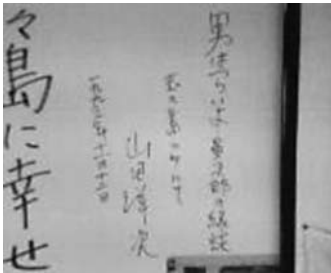
高島さん宅には、映画のロケに来た役者さんやスタッフのみなさんのサインが、なんと家の襖にずらりと書かれているんですね。今回の「機関車先生」のものだけでなく、「男はつらいよ」のロケがおこなわれた時に書いてもらったという、渥美清さん

つもちゃんの

ドハマタ ラジオ日記

のサインや山田洋次監督のものもありました。襖のサインは大変迫力があります。その数……見えるだけでも数十人。襖ですからもっていくことは大変、みなさん高島家に来られて書いてくれるのだそうです。島のみなさんの暖かい人柄にふれて、きっと快く書かれたものばかりでしょう。サインの添えられた感謝の言葉を詠ませていただくと、役者さんやスタッフのみなさんの光景が目に見えます。

高島さんの家から30歩ほど下ると自治会長の北野芳市さんのお宅があります。少しお話をうかがいました。小学校が廃校になり、急激に島の人口が減ってしまったこと。島民は30人足らずで高齢化がすすんでいること。昔は海がもっときれいで、鯖もたくさんとれていたこと。でも志々島が一番いいと死ぬまで離れるつもりはないということ。そして笑いながら、30人の島民のみなさんで毎年しているという『運動会』の話もしてくださいました。志々島の島民運動



会はなんと島で一番広い、幅2mの道路の数十メートルを使うそうです。パンくい競走や綱引きをするのだとか、狭いなら狭いでなんとかなるとニコリ！すごいです。ちょっと感動してしまいました。

北野さんとはその後、島の北側にある樹齢1200年以上の大楠を見にいきました。大楠へ



は本村地区から15分ほど、但しアップダウンの山道です。県の天然記念物にもなっている高さ40m以上根周り12m以上、とにかく大きいデカイ楠の木です！島の守り神とされているのですが、こちら残念なことに台風の影響で葉がほとんどおちてしまっていました。いつもなら青い葉が枝をおおい隠すように茂っているのだとか……。でも枝ぶりは楽しめました。こんな大楠は珍しいとか。一見の価値あります。

志々島での半日間は、時間の流れがいつもよりゆっくりしているような気がしました。なにがあるというわけではありません。本当に静かな島です。鳥の声と波の音しかきこえない、そんな島です。ふらっと島に立ち寄って、ぶらぶらとてくてく島を歩くのも結構楽しいものです。いかがですか？